

大阪文化祭参加

クラブファンタジーのタベ

神戸女学院大学音楽学部同窓会

発足50周年記念

2001年11月1日(木) 午後7時

いずみホール

主催 クラブ ファンタジー (神戸女学院大学音楽学部同窓会)

後援 神戸女学院大学音楽学部・社団法人神戸女学院教育文化振興めぐみ会

マネジメント 大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503 FAX06-6135-0504

ごあいさつ

第1回卒業生は1907年(明治40年)



1907年(明治40年)に最初の卒業生を送り出した音楽部(当時の名称)は神戸女学院の最も古くからある学部でございます。

1951年(昭和26年)に美田節子先生、須藤澄先生(共にM52回生)の発案で、「音楽学部の卒業生が協力し励まし合って、研究や音楽活動を続けましょう。」と、クラブファンタジーを発足なさいまして、今年は50周年を迎えました。

その間、日本は戦後の物資不足、貧しさを乗り越えて、努力を重ね、驚異的發展を遂げまして、今日の世界的評価を得るに至りました。

現在、クラブファンタジーの会員も2400余名を擁し、多くの方々が日本国内、また海外でも活躍して下さっておりますことは、誠に喜ばしいことでございます。卒業生が現在のように活躍できますのも、この伝統ある神戸女学院のキリスト教教育と、心の通った恩師、先輩、友人を得たおかげであると存じます。

本日は、指揮に黒岩英臣氏を迎え、卒業生を中心にオーケストラを結成し、種々のジャンルからソリストの協力を得て記念のコンサートを催すこととなりました。これだけ立派な卒業生を輩出しておりますので、是非、卒業生も神戸女学院の専任教師に、と願いますのは、私達の強い希望なのでございます。

クラブファンタジーの会員は、今後も溢れる愛校心をもって神戸女学院を支えて参りたいと存じます。何卒、皆様のお導き、そしてお力をお与え下さいますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、この記念コンサートのために一方ならぬお世話を下さいました前中明子音楽学部長、澤内崇音楽学科長、中村健教授、河野有宏事務長、音楽学部の先生方、そして出演の皆様にご感謝を捧げたいと存じます。

神様のご意志に添って世界の平和が保たれますことを、心から願いつつ……。

クラブ ファンタジー会長

神戸女学院大学名誉教授

岡田 晴美 (63/M67)

クラブファンタジー

1951年に発足した神戸女学院大学音楽学部卒業生の会の名称です。

本会は会員相互の研究、及び親睦と交流を目的としています。

賛 辞



クラブファンタジーの「発足50周年記念・クラブファンタジーのタベ」の開催を心からお慶び申し上げます。

40周年記念コンサートの際のメッセージでも申し上げたことではありますが、発足時の昭和27年と言えば太平洋戦争の敗戦後間もなく、日本国中が心身共に疲弊し切って、人々が日々の衣食に追われ、文化芸術活動に想いの及ばなかった時代でした。そんな時代に音楽学部の卒業生がたが、相互の向上のために激励し合い、音楽を通して社会に奉仕したいとの願いをこめて、クラブファンタジーを発足なさいました。以来50年、クラブファンタジーの公演は、日本の音楽界において揺らぐことのない高い評価を受け、神戸女学院大学音楽学部の存在とその貢献の証しとなり、後輩、在校生たちへの大きな励ましとなっています。この素晴らしい伝統が、ますます育てはぐくまれますよう願うと共に、真摯に賛辞を呈するものであります。

去る9月23日に、この「いずみホール」において、かつて私が一時期隊長をしていた「関西学院聖歌隊」が「創立50周年記念演奏会」を行いました。現役、OB、関係者数百名が参集、合同演奏なども致しましたが、初期にはクリスマス音楽礼拝や地方教会・学校演奏旅行に、神戸女学院大学音楽学部の学生諸君の応援を頂きました。クラブファンタジーのメンバーの中には、ご記憶のかたがいらっしゃるかも知れません。この機会にあらためてお礼申し上げます。

神戸女学院大学
院長 城崎 進

音楽学部長として、そして会員として喜びを共に！



クラブファンタジー発足50周年お目出度うございます。音楽学部教員として心からお祝い申し上げますと共に、私自身一会員として皆様と共に今日の演奏会を喜び楽しみにしております。

50年前と申しますと、私が音楽学部に入學する数年前、第二次世界大戦の約10年後に発足した事になりますので、まだ音楽に携わる人の少なかった時期に音楽学部同窓会としてクラブファンタジーを組織された先輩達に改めて敬意を表さずにおれません。

神戸女学院大学音楽学部は学生数に比して多くの演奏家や留学生を出している事に誇りを持っていますが、その卒業生をクラブファンタジーは常に支援して下さっている事を感謝致しております。

今では神戸女学院創立126周年を迎え、会員数も非常に多くなりましたので、会をスムーズに運営するために、岡田晴美現会長の元に委員会組織や会則などもきちんと整えられました。また以前、私達がガリ版刷りの手作りで始めたファンタジー便りが今では立派な新聞となっており、毎年発行されている事は私達にとって喜びです。

本日は卒業生の中でも世界で活躍しているソリスト達が演奏致しますが、これからも技術だけでなく豊かな内面を持つ素晴らしい演奏家を育て、世に送り出して行くために音楽学部とクラブファンタジーが協力して参りたいと願っております。

神戸女学院大学
音楽学部長 前中 明子 (M77)

クラブファンタジーの夕べに寄せて

神戸女学院大学音楽学部の同窓会クラブファンタジーが発足50周年を迎えた。むかしは人生50年などといったもので、人の一生にも匹敵する歴史ということが出来る。もちろん発足以来の年月だけが問題ではなく、その間に何をしたかが重要である。

その意味でクラブファンタジーは、数ある音楽系同窓会のなかで名声が高い。卒業生の人数は、ほかの音楽大学よりも多いとはいえないが、従来の活動が群を抜いて華やかで、質的に高度な内容を披露してきたためである。実際、クラブファンタジーは多士済済、世に認められた名演奏家を輩出している。まさに人材の宝庫である。その母体となった神戸女学院には、たんに優秀な演奏家というだけでなく、個性的な才能が輩出した。それは神戸女学院の自由で芸術的な雰囲気、独自の教育方針の反映である。

今回の50周年記念のコンサートにしても、5人の出演者は、いまやわが国の楽界を代表する存在であり、世の注視を集めてきた人たちである。したがって演奏の質の高さは、比類のないものとなろう。クラブファンタジーならではの催しとなることは、いうまでもない。むろん優秀な同窓生が多いことから、この人たちがすべての代表というわけではないが、コンサートはすくなくともいまの時代を代表するものとなろう。現代におけるもっとも高度な演奏を、一夜で聴かせる催し、それが今回のクラブファンタジーの夕べである。

音楽評論家 小石 忠男

“美しい城” 50年

コンサートへのメッセージに、こんな言い方は不謹慎かも知れませんが、今夜の顔ぶれを見て、なんと美人ぞろい！というのが実感です。それも当然といえば当然ですね。神戸女学院出身のアーティストばかりなのですから。

もちろんお顔ばかりではありません。今夜の5人をはじめとして、女学院音楽学部が育ててこられた特徴のひとつは《美しい音楽》であると思います。音楽だから美しいのは当たり前とおっしゃるかも知れませんが、ところが違うんです。近ごろ、美しくない音楽が、あまりに多いと思いませんか。そのなかで女学院は、新鮮で、気品のある、深い音楽を、一貫して目指してこられました。今夜は、その代表選手ともいうべき5人です。

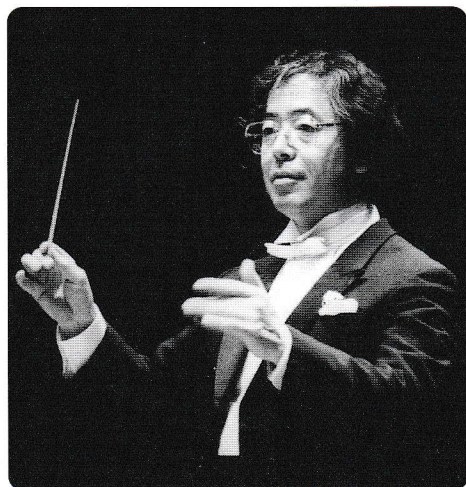
同時多発テロなど、いま世界をとりまく環境は、決してよくはありません。このなかで、美しさを追求してやまないみなさん方の音楽が、多くの人たちの心を和げ、平和な世界建設に役立ちますことを、心から信じ、コンサートのご成功を祈ります。

音楽評論家 日下部 吉彦

黒岩 英臣 (Hideomi Kuroiwa, Conductor) ●指揮

1942年東京に生まれる。1960年桐朋学園大学指揮科入学、故斎藤秀雄氏に師事。在学中は同大学オーケストラを指揮する他、ヴィオラ奏者、ピアノ奏者としても活動する。1964年同大学弦楽オーケストラのアメリカ公演に指揮者として同行。1965年同大学卒業、NHKテレビ「今年のホープ」に出演。同年、修道士となり1975年まで修道生活を送った。その間、神学、哲学、ラテン語、グレゴリアン、ポリフォニーを学び、典礼音楽の指揮、作曲を行う。1976年より再び音楽に専念し、1977年1月都響ファミリーコンサートの演奏では、「久方ぶりに現れた、優れた資質をしかと感じさせる新人」と絶賛され一躍脚光を浴びた。関西フィル、札幌、名古屋フィル、九響等の定期演奏会をはじめ、全国の主要オーケストラを指揮し、安定した評価を得ている。自らが敬虔なキリスト教徒ということから、宗教音楽に造詣が深く、情熱的な音楽創りが評価されている。

1981年9月から1988年まで九州交響楽団常任指揮者、1985年8月から1989年まで神奈川フィル常任指揮者、1988年4月から1994年3月まで関西フィルの常任指揮者。2001年9月より山形交響楽団の常任指揮者に就任。桐朋学園大学助教授。



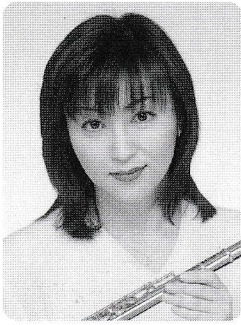
クラブファンタジー・フェスティバルオーケストラ ●管弦楽

コンサートミストレス

※松永みどり (88)

Violin	蓮江久美子 (84)	中谷 葉子 (87)	阿保由美子 (88)	龍治 史子 (88)
	豊島 直子 (89)	西田久美子 (90)	宇治 広子 (90)	岩永美知子 (90)
	有澤 智美 (93研生)	阿部 敦子 (96研生)	廣津 智香 (106)	根来 潤子 (108)
	※菊本 恭子 (109専)	岡 令子 (110専)	蓮江万里子 (110)	柳生 奈美 (111)
	藤井てる子 (112)	岩谷 尚子 (112)	長谷川牧子 (116)	
Viola	飯野奈津子 (75)	吉井 謡子 (87)	石田美紀子 (90)	道幸 明美 (93)
	井爪 良子 (94)	大戸加奈永 (108)	坂元 彰子 (111)	佐々木麻起子 (113)
Violoncello	※雨田 一孝	瀬涛 康江 (109)	九十九華子 (113)	黒田 育世 (115)
	大西 彩子 (116)	*山岸 孝教	*柳瀬 史佳	
Contrabass	※南出 信一	*佐々田ゆかり	*藤井 真帆	*土屋 綾子
Flute	三浦 緑 (96)	長谷川博子 (108専)		
Oboe	※岩永 健三	庄田 真弓 (117)		
Clarinet	※岡田 孝夫	久保 明子 (116専)		
Fagotto	※瀧本 博之	*原田麻依子		
Horn	※細見由紀子 (109専)	*碓井 淳一	*柏原 賢	*中西 順
Trumpet	※竹森 健二	*藤田小津枝		
Trombone	*石川 義治	天羽麻衣子 (114)	*田村 佳子	
Percussion	*細田 真平	林田 みき (118)	高濱 由衣 (118)	
Harp	鈴木 貴子 (103)			

(※音楽学部非常勤講師 *客員)



安藤 史子 (あんどう ふみこ M102) ●フルート

神戸女学院大学在学中ハンナ・ギュリック・スエヒロ奨学金授与。卒業後渡仏し、88年パリ・エコール・ノルマル音楽院卒業。津田公子、曾根亮一、加藤元章各氏に師事。フルートをC.ラルデ氏、室内楽をD.オヴォラ女史、現代奏法をP.イヴ・アルトー氏に学ぶ。パリにてリサイタル開催。帰国後、大阪・東京でのリサイタル、NHK-FM出演、オーケストラとの度重なる協演、M.ラリュール氏とデュオコンサート等目覚しく活動。97年ブラジル政府の招請により5都市で公演。98年ナミレコードからCDをリリース。第3回日本管打楽器コンクール、第3・4回日本フルートコンベンションコンクール、第1回日本木管コンクール入賞。兵庫県新進芸術家奨励賞、大阪文化祭奨励賞、第1回松方ホール音楽賞大賞受賞。神戸女学院大学非常勤講師。いずみシンフォニエッタメンバー。



神谷 朝子 (かみや あさこ M105) ●ハープ

神戸女学院大学音楽学部卒業、同研究生修了。第10回中部読売新人演奏会、第3回読売推薦コンサートに出演。ニース国際音楽アカデミーにてマリー・クレール・ジャメ氏に師事。中部日本放送主催アーティストプレゼンテーション「完成された楽器=ハープ」に出演。95年第7回日本ハープコンクールプロフェッショナル部門入選。96年第8回日本ハープコンクールデュオ部門第2位。第18回新進演奏家紹介コンサートオーディション優秀賞受賞。98年第3回福井ハープ音楽賞コンクール演奏部門第1位。これまでに西垣英子、田淵順子、山畑るに絵の各氏に師事。現在フリーのハーピストとしてソロ、室内楽、オーケストラ等で活動中。しらかわシンフォニアメンバー。



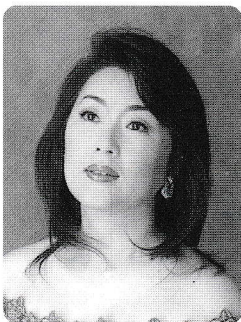
野村 幸代 (のむら さちよ M102) ●ピアノ

神戸女学院大学音楽学部卒業後渡独、ハンブルクで研鑽、ミュンヘン国立音楽大学大学院首席卒業。91年マリア・カナルス国際音楽コンクールでメダル受賞。95年W.ケンプ生誕100年記念国際ピアノコンクールでオルフェオ・グランプリ受賞。ミュンヘン・ヘラクレスザールでのリサイタル、バイエルン放送イタリヤ・アルコの音楽祭に出演。97年ハイルブロン・シンフォニーオーケラの定期に出演。98年ルール・ピアノフェスティバルでリサイタル、同年リスト「巡礼の年第2年イタリヤ」をCD録音。N響室内オケ、日フィル、都響、大阪センチュリー、京響他と共演。室内楽ではタカーチカルテット、ウィーンフィル、ドレスデンフィル、N響首席奏者等と共演を重ねる。大阪文化祭奨励賞、神戸灘ライオンズクラブ音楽賞受賞。山田康子、井口基成、山田富士子、コンラード・ハンゼン、ゲルハルト・オピッツ各氏に師事。神戸女学院大学非常勤講師。



荒田 祐子 (あらた ゆうこ M97) ●メゾ・ソプラノ

神戸女学院大学音楽学部卒業、同研究生修了。岡田晴美氏に師事。80年関西歌劇団公演「アイダ」アムネリス役でオペラデビュー後、「カルメン」、「蝶々夫人」等数々のオペラに出演し、常に重要な役割を果たし高い評価を得ている。また「1万人の第九」をはじめ、オラトリオのソリストとしても活躍。83年文化庁芸術家在外派遣研究員として渡伊、ジュリエッタ・シミオナート氏のもとで3年間研鑽。ヨーロッパ各地での演奏会、テレビ・ラジオに出演。近年は中国上海市に招待され芸術祭に参加。第17回なにわ芸術祭新人賞、大阪文化祭奨励賞、クリティッククラブ新人賞、神戸灘ライオンズクラブ音楽賞、ノヴァーラ及びカリアリ国際声楽コンクール第1位、97年兵庫県芸術奨励賞等を受賞。神戸女学院大学非常勤講師。上海音楽院客員助教授。関西歌劇団理事。



釜洞 祐子 (かまほら ゆうこ M97) ●ソプラノ

神戸女学院大学音楽学部卒業、東京音楽大学オペラ研究科修了。畑きみ子、福沢アクリヴィ、畑中更子、インゲボルク・ハルシュタイン、ルドルフ・ヤンセンの各氏に師事。82年日本音楽コンクール第1位。84年文化庁芸術家在外派遣研修員としてミュンヘンへ留学。86~92年カッセル州立歌劇場と契約を結び、ハンブルク、ミュンヘン、ドレスデン等の歌劇場にも客演。「ブラハの春音楽祭」をはじめヨーロッパ主要音楽祭に参加。日本へは毎年帰国し、「夕鶴」、「忠臣蔵」、「アラベラ」、「リゴレット」等のオペラで新国立劇場等に出演。また、読響、新日フィル、東フィル等の演奏会でマズア、小澤征爾、鈴木雅明等と共演。94年ジロー・オペラ賞、2000年兵庫県文化奨励賞受賞。2001年文化交流で「夕鶴」をウズベキスタン等で公演。その他オラトリオ、歌曲の分野でも活躍。各地のリサイタルも反響を呼び、多方面から注目されている。ドイツ在住。二期会会員。



クラブファンタジーのタベ 演奏会記録

- 1952. 11. 21 大阪産経会館
野崎 住子(43) 古畑 敬(50) (伴奏) 塚本 保子(65)
- 1953. 5. 16 神戸商工会議所
菅野 瑛子(69) 西占 操(66) 吉岡 秀子(67) 塚本 保子(65)
崎山俱仁子(68) 植村 輝子(67) 山本 智子(63)
(伴奏) 朝倉 和子(70)
- 1953. 11. 6 大阪ガスビルホール
日下部和子(68) 西川 尚子(67) 島田きみ子(65) 岡本 房子(65)
横田 新子(59) 島 暢子(68) 岡田 晴美(67) 畑 きみ子(58)
(伴奏) 伊丹多摩子(67) 原 竹子(58)
- 1955. 7. 16 精道小学校
興地美沙子(72) 清水 幸子(72) 香川寿満子(68) 今林 孝子(63)
木村 洋子(71) 北岡三和子(72) 魚住千代子(72) 今井 たみ(52)
竹内 秋子(72) 那須 祐子(62) 村上 佳子(57)
(伴奏) 高津 澄子(61) 横田 新子(59)
- 1956. 精道小学校
吉川巳代江(70) 菊池 美保(73) 紀 道子(73) 魚住千代子(72)
佐藤三和子(72) 呉竹 秋子(72)
(伴奏) 伊藤美沙子(72)
- 1957. 6. 8 神戸新聞会館
辻 智美(74) 塚本 保子(65) 安見 泰子(66) 周 雪麗(74)
村上 佳子(57) 宇治田弘子(74)
(伴奏) 高橋 文子(74) 横田 新子(59)
ハウスライト先生とK.C.音楽学部コーラス
- 1958. 9. 16 神戸国際会館
尾崎 文子(75) 吉川巳代江(70) 内田 脛子(67) 木村 洋子(71)
中島 淑子(75) 片岡 靖子(75) 向井久美子(74) 松枝 良子(67)
鈴木奈津子(75)
(伴奏) 平木 洋子(75) 吉田 文子(74) 中島多摩子(67)
- 1959. 7. 6 神戸国際会館
塚口教会建設資金援助のため
畑 きみ子(58) 塚本 保子(65) (伴奏) 豊田 寿子(61)
- 1960. 11. 4 神戸国際会館
大石 明子(77) 堀口 邦子(76) 新庄美沙子(75) 松本 勝代(77)
桑田 絲子(76) 大槻 道子(77) 加藤 信子(76) 瀬田 弘子(74)
井原 宏子(77)
(伴奏) 横山 容子(77) 八木美与子(76) 実方恵美子(77)
- 1962. 5. 15 神戸国際会館
土屋知加子(79) 今嶺 尚子(79) 横山 容子(77) 長治 邦子(79)
下田 閉子(63) 岡田 桜子(74)
ラーソン先生とK.C.音楽学部コーラス
- 1971. 12. 7 毎日ホール (20周年記念コンサート)
岡田 晴美(67) 内田 脛子(67)
- 1972. 9. 19 兵庫県民小劇場
安見 泰子(66) 桑田 絲子(76)
- 1973. 11. 9 兵庫県民小劇場
店村真知子(89) 上柳 明子(86) 萩本 節子(89) 小椋 典子(88)
松永みどり(88)
(伴奏) 榎原 節子(89) 志村 雅子(88) 顕谷三綾子(85)
- 1976. 10. 8 兵庫県民小劇場
奥村 智美(74) 山内 祝子(80)
- 1977. 12. 21 兵庫県民小劇場
坪田 暁子(93) 黄堂 英美(90)
(伴奏) 榊葉真理子(93) 高倍美知子(90)
- 1978. 10. 9 兵庫県民小劇場
榊葉真理子(93) 三本 陽子(92) 山内 鈴子(91) 片倉美千子(94)
寺岡 孝子(94) 田中 淳子(94) 橋本 有子(92)
(伴奏) 内尾 睦子(94) 鍋島 治子(95)
- 1979. 10. 26 兵庫県民小劇場
奥 千恵子(95) 後藤 恭栄(92) 芦田 杏子(86) 北村 真理(96)
平井満美子(95) 松井 智恵(95) 有沢 智美(93) 永井麻利子(91)
(伴奏) 田中 景代(96) 鍋島 治子(95) 丸山 光幸(95)
- 1980. 10. 16 兵庫県民小劇場
鍋島 治子(95) 久保 礼子(84) 菊池 由子(95) 齋藤 言子(94)
松崎 裕子(94)
(伴奏) 中出 安子(95) 内尾 睦子(94)
- 1981. 5. 8 兵庫県民小劇場
秋原 恵子(97) 津島なをみ(97) 遠越 祐子(97) 朝日 雅子(97)
荒田 祐子(97) 白樫 順子(97)
(伴奏) 田中 由紀(97) 田中 景代(96) 小松 典子(97)
- 1982. 10. 22 兵庫県民小劇場
牧 淑子(98) 鳥居 和世(96) 昆 優里(95) 八木 宜子(96)
蒲原さなみ(99) 川端 蓉子(98) 小屋 昌子(97)
(伴奏) 田川 敦子(99) 坂口 摩耶(96) 山口 カヨ(98)
田中 景代(96)
- 1983. 10. 28 兵庫県民小劇場
顕谷三綾子(85) 久保佳永子(88) 苗村 紀子(85) 魚住千代子(72)
橋本 保子(86) 真田 和子(87) 道幸 明美(93) 山口 香子(86)
久保 礼子(84) (伴奏) 坂井真理子(93)
- 1984. 10. 31 兵庫県民小劇場
岩田 朋子(100) 小林城光恵(86) 湊 朱美(77) 中尾 仁美(100)
山田 郁子(100) 末廣 孝子(94) 関 由利子(86)
(伴奏) 内田 博世(100) 堀 早苗(86)
- 1985. 10. 25 兵庫県民小劇場
氏田 敬子(101) 須田麻起子(95) 鈴木 順子(101) 西田久美子(90)
山本 基子(100) 齋藤 真理(101)
(伴奏) 飯野 友子(101) 堀切 尚子(101) 内田 博世(100)
山内 鈴子(91)
- 1986. 10. 24 兵庫県民小劇場
岡本美生子(101) 大内山裕美子(91) 上田 佳子(100) 尼子 操(100)
渡壁 絵美(100) 蓮江久美子(84) 石原 恭子(86) 飯野奈津子(75)
飯野 友子(101) (伴奏) 内田 博世(100)
- 1987. 10. 29 兵庫県民小劇場
池田 麻里(103) 小堀加寿子(98) 松村美知子(90) 島田 準子(101)
吉野 桂子(103) 田中由紀子(85)
(伴奏) 堀切 尚子(101) 山口 加代(98)
- 1988. 11. 15 兵庫県民小劇場
会田裕美子(104) 大江 美香(104) 二滝 範子(96) 藤井 裕子(92)
木澤 由美(104) 丸尾 勝代(77)
(伴奏) 齋藤 明美(104) 岩村 由紀(90)
- 1989. 10. 25 兵庫県民小劇場
笠井 節子(104) 俵 京子(104) 林 規子(100) 水田 順子(105)
井澤 明子(104) 内海 節子(89)
(伴奏) 廣瀬 裕子(105) 原納 潤子(104) 岩村 由紀(90)
- 1990. 11. 21 宝塚ベガ・ホール
濱野 三華(105) 瑠坂 仁美(102) 太宰 まり(92) 西村きく子(102)
鹿島 満美(104) 木岡 基子(104)
(伴奏) 松田はるひ(102) 俵 京子(104)
- 1991. 12. 12 いずみホール (40周年記念コンサート)
黒瀬紀久子(92) 山内 鈴子(91) 大川内玲子(87) 南 祐子(86)
松永みどり(88) 荒田 祐子(97) 齋藤 言子(94) 田中 淳子(94)
(伴奏) 内尾 睦子(94) 神吉 泉(105)
- 1992. 10. 19 宝塚ベガ・ホール
入谷 知子(91) 中矢 紀子(109) 鈴木 貴子(103) 星島佐吉子(106)
石田 恭子(102) 山本 牧子(102)
(伴奏) 池田 育子(106) 氏田 敬子(101) 池田 純子(102)
- 1993. 11. 18 宝塚ベガ・ホール
田中 規子(110) 土橋 都子(106) 一瀬 美子(107) 細見由紀子(109)
織田 郁子(108) 田中万由里(105)
(伴奏) 藤溪 優子(108) 氏田 敬子(101) 島 敏子(108)
- 1994. 11. 8 宝塚ベガ・ホール
中山美奈子(111) 奥村 真理(100) 肥塚麻紀子(109) 前田 直子(105)
本田淳子(専111) 森川 華世(109)
(伴奏) 川本佳代子(109) 滝田 純子(110) 島崎 央子(109)
- 1995. 11. 13 宝塚ベガ・ホール
川本佳代子(109) 桐田由希子(108) 岩崎 美穂(103) 築野友理香(109)
三澤多加子(101) 中谷 純子(109)
(伴奏) 中道ゆう子(109) 酒井百合子(101) 川鍋あづさ(109)
- 1996. 11. 8 宝塚ベガ・ホール
日置真由美(111) 前田真由美(109) 渡辺 啓子(108) 川崎 佳子(110)
片桐 聖子(109) 小林 彩(111) 木下千佐子(109)
(伴奏) 小幡 麻紀(111)
- 1997. 11. 10 宝塚ベガ・ホール
中島 順子(110) 佐藤 仁美(111) 前田 綾子(111) 小幡 麻紀(111)
田中 潤子(94) 黒瀬紀久子(92) (伴奏) 中矢 紀子(109)
- 1998. 11. 20 宝塚ベガ・ホール
菊本 恭子(109) 小池 泉(105) 船本真理子(110) 丸山 有子(92)
南 祐子(86) (伴奏) 中道ゆう子(109) 石井なをみ(97)
- 1999. 11. 1 宝塚ベガ・ホール
秋田 直美(109) 福嶋 千夏(113) 藤本真基子(112) 井上 和世(86)
大川内玲子(87) (伴奏) 森田 有香(110)
- 2000. 11. 16 宝塚ベガ・ホール
山内 鈴子(91) 濱田 あや(111) 黄堂 英美(90) 長谷川博子(108)
唐澤まゆ子(110)
(伴奏) 岩田 朋子(100) 山岸 千明(108) 山岸 陽子(110)

(数字は卒業回数)

◆モーツァルト：「フルートとハーブのための協奏曲 八長調K.299」

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756-91）は子供の頃からヨーロッパ各地を旅し、行く先々で音楽様式を身につけていったが、成人してからの母と二人での〈マンハイム・パリ旅行〉はいわば就職活動であった。彼は故郷ザルツブルグの大司教と折り合いが悪く、宮廷音楽家の職を辞したからである。父レオポルドが手紙に“長続きのする勤め口を探すこと、それが成功しなかったらいい稼ぎのある大きな場所へ行くことだ”と書いているように、18世紀後半には、王室や教会のおかかえを離れた職業としての“芸術家”が社会に確立していなかった。ある音楽学者によれば、音楽家の社会的地位は宮廷の召使の中程度であったという。

この旅行では望みの職を見つけることができず、また異境の地で最愛の母が逝くなど、モーツァルトは失意のうちに故郷に帰ることになるが、その一方ではフランス様式による華やかな作品を残した。その代表作「フルートとハーブのための協奏曲」はパリ滞在中に知己を得たド・ギース公爵が、1778年に令嬢の結婚式用に作曲を依頼したことによって書かれた。当時22歳のモーツァルトがフルートの上手な父とハーブを弾く娘のためにギャラント様式で書いたこの曲は、三楽章（アレグロ／アンダンティーノ／ロンド）で構成されている。婚礼の席にふさわしい典雅な雰囲気にもちれた絢爛たる協奏曲といえよう。

◆グリーク：「ピアノ協奏曲 イ短調 作品16」

エルヴェルド・グリーク（1843-1907）が活躍した19世紀後半は、時代の思潮である“ロマン主義”が民族的特色を色濃くしていった“国民楽派”の時期にあたる。ロマン主義はドイツに起こった文芸運動に端を発し、絵画・音楽からあらゆる領域に及んだ精神活動で、その思想的な背景ではドイツ観念論哲学と結びついている。さて、グリークはノルウェイの港町ベルゲンに生まれ、15歳のときに当時北欧の作曲家たちが学ぶことの多かったライプツィヒ音楽院に留学し、4年間を過ごした。この音楽院は、高名な哲学者の血を引くメンデルスゾーンや、文学にも哲学にも精通していたシューマンがかつて教えていた所で、グリークがここで彼らドイツ・ロマン派の音楽に親しんだことは、作曲のスタイルに生涯にわたる影響を及ぼしたといわれる。もう一つのスタイルの特徴は祖国の民謡を素材として用いたことである。卒業後のグリークは北欧の作曲家たちと親交を結ぶようになり、彼らを通じて身近になった民族的な素材は、主に歌曲やピアノ小品に反映されている。

「ピアノ協奏曲」は25歳のグリークが、結婚の翌年1868年に一夏をかけて作曲したもので、彼の唯一の協奏曲である。ヴィルトゥオーソのピアノ、詩情に満ちた旋律、民族舞曲的な主題などを特色とし、国民主義的意識の高まった当時の典型的な協奏曲の一つでありながら、若きグリークの清冽な抒情性と華麗さが印象的である。なおグリークは最晩年にオーケストラ・パートを書き直しており、現在使われているのはその改訂版である。

◆ロッシーニ：歌劇『セヴィリアの理髪師』序曲

19世紀に栄えた音楽文化は、オーストリア・ドイツ系の交響音楽とイタリア・フランス系の歌劇に大別できよう。ドイツが観念論哲学を背景に、器楽優位で感覚の楽しみを超えた“芸術音楽”を目指したのに対し、フランスでは感覚を刺激し、音楽とスペクタクルで聴覚も視覚も楽しませる歌劇がもてはやされた。パリは文化の中心地でコスモポリタンな雰囲気をもった都市であったが、そのパリで絶大な人気を集めたのは、イタリア人ジョアッキノ・ロッシーニ（1792-1868）であった。彼はこの世紀前半における時代の寵児だったのである。

オペラ・ブッファの傑作といわれる『セヴィリアの理髪師』は1816年に初演された。18世紀フランスの劇作家ボルマルシェが書いた喜劇三部作の第1作に基づくので、物語としては、第2作に基づくモーツァルトの『フィガロの結婚』の前編にあたる。短期間で仕上げられたというこの歌劇は、実は以前に書かれた歌劇『パルミーラのアウレリアーノ』及び『イギリス女王エリザベス』と同じ序曲をもつが、転用は前世紀においては珍しいことではなかった。それ故、序曲としてはこれから始まる劇の内容を暗示するといったタイプではなく、音楽的に独立している。喜劇の性質にふさわしい明るさに満ち、ロッシーニらしい快活さと才気がほとばしる音楽である。なお19世紀後半にこの歌劇が上演される際には、第2幕での歌の稽古の場面で、当時のプリマドンナたちがアリアビエフの“ナイチンゲール”を歌った。

◆ヴェルディ：『イル・トロヴァトーレ』より「炎は燃えて」

19世紀のイタリア・フランス系歌劇の世界において、ロッシーニが前半の寵児なら、後半に君臨するのはジュゼッペ・ヴェルディ（1813-1901）である。ヴェルディが活躍を始める頃のイタリアは、政治の変動期であった。オーストリアからの政治的自由とイタリア統一を求める気運が高まっていったのである。この社会的背景の中、ヴェルディの名声を確立した1840年代の『ナブッコ』などは非常に愛国的な題材を取り上げており“イタリア国民楽派”的であるとも言われる。

1853年初演の『イル・トロヴァトーレ』は、『リゴレット』『椿姫』と同時期の傑作である。登場人物の性格や心理描写・劇的表現性などを一作毎に追求していったといわれるヴェルディだが、この『イル・トロヴァトーレ』は歌手の声そのものによる表現力、圧倒的なまでの声の饗宴という点で、彼の作品の中でも白眉であろう。題名のトロヴァトーレとは中世ヨーロッパを漂浪していた貴族出身の吟遊詩人のことで、この歌劇の中では主役の一人マンリーコのことである。物語は15世紀のスペインを舞台として、復讐劇に恋愛が絡みながら複雑に展開していく。「炎は燃えて」は“ジプシー”と副題のついた第2幕で歌われる。ジプシー女アズチーナが、野営地に燃えさかる大きな焚火を見ながら話を始める。彼女の母親は先代ルナ伯爵によって火焙りの刑にされたとその時のことを思い出しながら、恐ろしくも熱情的に歌う有名なアリアである。そして、息子として育てたマンリーコに復讐せよと命ずるが、実はそのマンリーコこそアズチーナによって誘拐された伯爵の次男であったのである。

◆ドニゼッティ：『ラ・ファヴォリータ』より「おお、私のフェルナンド」

ガエターノ・ドニゼッティ（1797-1848）はロッシーニの5歳年下で、ヴェルディが頭角を現すまでの1830~40年代に活躍した“イタリア・ロマン派”の作曲家である。彼は稀に見る多作家といわれ、伝説的な早書きの職人技で、活動した28年間に70を越す歌劇を作曲している。イタリアでの『アンナ・ボレーナ』『愛の妙薬』などの成功の後、大都市パリに進出、晩年にはウィーン宮廷楽長のポストを得るなど、人気と実力を誇った。

『ラ・ファヴォリータ』は1840年にパリ・オペラ座で初演された彼の充実期の堂々たるグランド・オペラである。初演時はフランス語台本によったが、今日では習慣としてイタリア語で上演されるこの歌劇で、ファヴォリータはお気に入りという意味し、国王の寵姫レオノーラのことである。さて、当時のアリアには“カヴァティーナ〜カバレッタ形式”という定型があったが、第3幕で歌われるレオノーラの「おお、私のフェルナンド」もこの形式をとっている。舞台は14世紀のスペイン、カスティリア国王の宮殿の場面。凱旋してきたフェルナンドはレオノーラの目前で、手柄をたてた褒美に自分の恋するレオノーラを国王の側室とも知らず、所望する。フェルナンドを愛するレオノーラは、彼への熱い想いと自分の素性もたらす破局への暗い予感とに揺れながら、カンタービレのカヴァティーナからモデラート・モツソの技巧的なカバレッタへと劇的に歌う。

◆ドリーブ：“カディスの娘たち”

バレエ音楽『コッペリア』や歌劇『ラクメ』の作曲家であるレオ・ドリーブ（1836-91）は、サン＝サーンスやビゼーと同じく1830年代のフランスに生まれた。初期はオペレッタの作者という評判であったが、『コッペリア』の成功によって作曲家としての名が広く知られるようになった。その後はパリ音楽院教授に就任、47歳の時に書いた異国インドを舞台にした『ラクメ』の大成功で翌年に名誉ある学士院会員に選出されるなど、晩年は栄誉に包まれた。

“カディスの娘たち”は1860-70年代に出版された歌曲で、数少ないドリーブの歌曲の中ではとりわけ知られている。ドリーブより一代上アルフレッド・ドゥ・ミュッセの詩による異国情緒にあふれる歌で、スペインのアンダルシア地方にある港町カディスの娘たちが、カスターネットの音に合わせてボレロを踊りながら歌う。軽やかな三拍子のボレロの前奏によって、野に出て興ずる娘たちの華やいた歌声が運ばれてくる。旋律は繰り返される。一番では“私の顔色はいいかしら？バスク風の衣裳は似合っているかしら？スタイルはいいかしら？”とたずね、二番では“羽のついた帽子をかぶった貴族がやってくる”と始まり、殿様がわしの宝はあなたのものと言い寄ってもカディスの娘たちはきかないわと歌う。間に入る“ラ・ラ…”の弾んだ歌声や装飾的な旋律など、機知に富んで魅惑的な音楽には、オペレッタにおいてもボレロなどの楽曲を得意としたといわれるドリーブの本領が存分に発揮されている。

◆アリャビエフ：“ナイチンゲール”

アレクサンドロ・アリャビエフ（1787-1851）は19世紀前半のロシアにおいて、ロマン主義が発展していく時代背景の中、“ロマンス”と呼ばれる抒情的な芸術歌曲の先駆者であった。ミハイル・グリンカや、日本でよく知られている“紅いサラファン”を作曲したアレクサンドロ・ヴァルラモフとはほぼ同時代人である。アリャビエフは25歳で軍人となり、ナポレオン戦争に参加したが、ドレスデンに出陣した際にドイツ歌曲を知ったのではないかとされている。彼の生涯は、投獄や故郷西シベリアへの追放など波乱の日々が続いたが作曲を断念することなく、49歳でモスクワに戻ってからは作曲家としての名声に包まれた。

“ナイチンゲール”はアントン・デーリックの詩による歌曲で、1820年代に書かれた。“ナイチンゲール、さえずりわたる汝よ、今立ち去り歌い、明日は何処へ？”と歌われるコロラチュラの名曲である。19世紀後半には、ヴェルディに絶賛され、歌の女王と呼ばれて“パッティ時代”を作り出したといわれるアドリアーナ・パッティや、マルセラ・ゼムブリッヒなど往年の名ソプラノたちが、『セヴィリアの理髪師』のロジーナが歌の稽古をする場面で、この曲を歌ったと伝えられている。

◆サン＝サーンス：歌劇『サムソンとデリラ』より「君が御声にわが心開く」

流麗な旋律で知られるカミュ・サン＝サーンス（1835-1921）は、フランス国民音楽協会創立者の一人であった。この協会は1871年の普仏戦争でドイツに敗北して沈滞気味であったフランスに、自国の器楽音楽を振興しようと“アルス・ガリカ（フランス芸術）”のスローガンのもと、設立された。器楽ではドイツに主導権を握られていたフランスの対ドイツ的な愛国的復興運動ともいえよう。サン＝サーンスはこの協会で長く指導的立場にあって、フランス近代音楽の基礎を築く功績をあげたのである。

1877年に初演された『サムソンとデリラ』は、旧約聖書士師記第13～16章にある怪力サムソンの物語に基づいている。古来、絵画にも主題として取り上げられたことの多い物語である。この歌劇は当初オラトリオとして計画されていたが、あらゆるジャンルに多大な作品を残したサン＝サーンスを代表し、また19世紀フランスのグランドオペラをも代表する作品といわれるようになった。「君が御声にわが心開く」はその中でも特に知られたアリアで、妖艶な美女のペリシテ人デリラによって歌われる。第2幕、古代パレスティナを舞台に、デリラは、自分に魅せられ始めたヘブライ人サムソンをさらに誘惑しようと、甘く官能的に歌う。なお優れたピアニストでもあったサン＝サーンスは「サムソンとデリラによる即興曲」の自作自演の録音を遺している。

◆ビゼー：『カルメン』より「ハバネラ」「セギディリア」

『サムソン』が古代イスラエルなら、ジョルジュ・ビゼー（1838-75）の『カルメン』は19世紀前半のスペインという設定である。このように、異国を舞台にした歌劇は19世紀のフランスで特に歓迎された。大掛かりな舞台装置や衣裳でエキゾチックな雰囲気を作りだすが、音楽に異国の要素がどれくらい取り入れられたかという程度はさまざまである。『サムソン』の場合に音階はあくまでも全音階的であるが、『カルメン』の場合にはスペイン舞曲が効果的に用いられ、花形ジブシー、恋多き女カルメンの本質を表わしている。

『カルメン』はメリメの同名の小説を原作として、台詞と音楽によって構成する“オペラ・コミック”の型で作曲された。1875年の初演時には、恋に破滅する男女という現実的な題材は不評であった。ビゼーは落胆して3カ月後に亡くなったと伝えられることが多いが、オペラ・コミック座とは次の契約が結ばれていたともいわれる。ともあれ、ビゼーの死後にギローが台詞の部分をレシタティーヴォに作曲し、全曲を歌で通す“グランド・オペラ”の型になり『カルメン』は人気を博するようになった。その人気は、ドイツの哲学者ニーチェが“この音楽は私には完全に思える。それは軽やかに、しなやかに、洗練されて近づいてくる”とラテンの芸術への賛辞をこの歌劇に贈っていることから伺われよう。「ハバネラ」は付点をもつ2拍子の舞曲で、セヴィリアの煙草工場の女工カルメンが登場する第1幕で歌われる。“恋はいうことを聞かない鳥、飼いならすことなんか誰にもできない”と奔放に歌い、伍長ドン・ホセに花を投げつける。続いての「セギディリア」は3拍子で“セヴィリアの城壁の近く、なじみのリーリャス・パスティアの店へセギディリアを踊りに行くの！”と純情なホセを挑発する。

◆團伊玖磨：歌劇『夕鶴』より「私の大事な与ひょう」

今年5月に急逝した團伊玖磨（1924-2001）は、歌劇や交響曲から映画音楽に至るまで幅広いジャンルに多くの作品を残したが、彼の音楽の本質は何よりも“歌・旋律”である。『夕鶴』は山田耕筰に続く世代として、戦後、芥川也寸志・黛敏郎と共に登場した團の初の歌劇である。彼を有名にした成功作であると同時に、邦人による“創作歌劇”のうちで外国で上演された初の作品であり、国内では最も上演回数が多い名作である。

劇作家木下順二は、民俗学者柳田国男の「全国昔話記録」を素材として、戦中に短編「鶴女房」を書いたが不穏な時代であったため出版されなかった。戦後になって木下はこれを近代劇に書き直し、戯曲「夕鶴」は生まれた。この劇が女優山本安英とぶどうの会によって上演された際に、團は付随音楽を担当し、さらに歌劇化を熱望した。木下は台詞を一語も変えないという条件で承諾し、團は作曲を始め、昭和27年には大阪で自らの指揮によって初演した。〈時〉いつともしれない物語〈所〉どこともしれない雪の中の村、と設定されたこの歌劇について“人間の純粋性と物欲の葛藤を描いた”と團は解説している。「私の大事な与ひょう」は主役つうの最初の Aria で、愛情深い夫が欲にとらわれ変っていく有様を前に、切々とした悲しみを歌う。團は亡くなる一ヶ月前の学会での講演で、音楽とは“人間の本質に関わること”そのものであり、“民族に…刻み付けるような音があっがいい”と真摯に語っている。音楽は単なる“愉楽の対象”ではなく、“音楽で何を表現するか”が彼の生涯の関心事であり続けたのであろう。聴く者の心をつつこの美しい Aria には、その團の真髓が“歌・旋律”として表われている。

◆トマ：歌劇『ミニョン』より「私はティタニア」

19世紀半ばのパリには、歴史的な題材を豪華かつ壮大にくりひろげるグランド・オペラに代わって、“リリック・オペラ”と呼ばれるジャンルが現れた。華やかさや壮観な見せ場はグランド・オペラの世界からかけ離れてはいなかったが、取り扱われる題材は個人の愛情が多く、親密で感傷的ともいえる抒情にあふれた世界が創りだされた。アンプロワーズ・トマ（1811-96）のリリック・オペラ『ミニョン』は1866年の初演以来、圧倒的な上演回数を記録し、この成功で名声を博したトマは5年後に、作曲の教授を勤めていたパリ音楽院の院長に就任した。

『ミニョン』はゲーテの「ヴィルヘルム・マイスターの修行時代」を原作とするが、ゲーテの小説が悲劇なのに対し、バルビエとカレによるフランス語台本はハッピー・エンドで、当時のフランス人の趣味に合わせたと思われる。物語は18世紀末のドイツとイタリアを舞台に、幼い頃にジプシーにさらわれた貴族の娘ミニョンとドイツの学生ヴィルヘルム、旅劇団の美貌の女優フィリーヌなどによって進行する。第2幕、劇中劇「真夏の夜の夢」の主役を演じ大喝采を博したフィリーヌによって、「私はティタニア」は歌われる。人々の賞賛に得意満面のフィリーヌが、妖精の女王ティタニアの衣裳を身にまとったままに歌うこのポロネーズ調の Aria は、ショパンのポロネーズとは性格を異にし、コロラチュラの技巧を駆使した至難の曲であり、難曲ならではの華麗さを極めている。

生島 美紀子 (M92)

神戸女学院大学音楽学部作曲専攻卒業。

米国スタンフォード大学大学院音楽学専攻修士課程修了、M.A.取得。

神戸女学院大学非常勤講師。

Program

モーツァルト◆フルートとハープのための協奏曲 八長調 K.299

Fl : 安藤 史子

W.A.Mozart/Konzert für Flöte, Harfe und Orchestra C-dur K.299

Hp : 神谷 朝子

I. Allegro

II. Andantino

III. Allegro

グリーグ◆ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

Pf : 野村 幸代

E.Grieg/Konzert für Klavier und Orchestra a-moll op.16

I. Allegro molto moderato

II. Adagio

III. Allegro moderato molto e marcato

* * *

ロッシーニ◆歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲

G.Rossini/Opera "Il barbiere di Siviglia" ~ Overture

ヴェルディ◆歌劇「イル・トロヴァトーレ」より “炎は燃えて”

M-Sop : 荒田 祐子

G.Verdi/Opera "Il Trovatore" ~ Stride la vampa

ドニゼッティ◆歌劇「ラ・ファヴォリータ」より “おお、私のフェルナンド”

G.Donizetti/Opera "La Favorita" ~ O mio Fernando

ドリーブ◆カディスの娘たち

Sop : 釜洞 祐子

L.Delibes/Les filles de Cadix

アリャビエフ◆ナイチンゲール

A.Aliabieff/Nachtigall

サン=サーンス◆歌劇「サムソンとデリラ」より “君が御声にわが心開く” M-Sop : 荒田 祐子

Saint-Saëns/Opera "Samson et Dalila" ~ Mon coeur s'ouvre à ta voix

ビゼー◆歌劇「カルメン」より “ハバネラ”、“セギディリア”

G.Bizet/Opera "Carmen" ~ Habanera, Seguidilla

團伊玖磨◆歌劇「夕鶴」より “与ひょう、私の大事な与ひょう”

Sop : 釜洞 祐子

トマ◆歌劇「ミニョン」より “私はティタニア”

A.Thomas/Opera "Mignon" ~ Je suis Titania

指揮 黒岩 英臣

管弦楽 クラブファンタジー・フェスティバルオーケストラ